

深化する絆、進化する病院

もっと みなみおおさか

— 特集 —

放射線科MAP

ロボット支援下ヘルニア修復術

認定看護師の1日

細胞検査士ってどんな仕事？

AIが拓く未来の医療(続編)

病院機能評価更新審査

温故知新(2)

Dr.コラム

職員リレーコラム

ご自宅でできる透析治療

就任のご挨拶

登録医紹介

地域医療

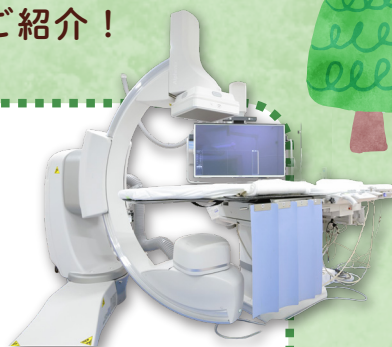
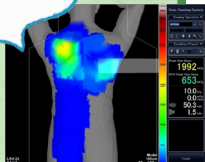


ようこそ!放射線科へ

放射線科MAP

放射線科の検査室や取り組みをご紹介します!

被ばくを
チェック!



当院では循環器の検査や治療を行っています。心臓や四肢の血管が狭い部分の有無を確認し、必要に応じて血管を広げる治療を行っています。このC型の装置がさまざまな角度に動くため、患者さんは体を動かさず検査や治療を受けられます。

血管造影室

CT室

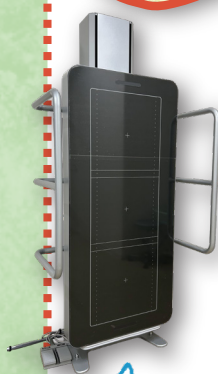
受付



放射線科にお越しになりましたら、まず受付をお願いします。受付後は、検査室前でお待ちください。順番になりましたら、スタッフが呼びます。



一般撮影室



長い範囲を一度に
撮影できる装置も備
えています

撮影した画像をすぐに確認できるデジタルX線撮影装置を導入しています。短時間で負担の少ない検査が可能です。

X線透視室



X線を利用して、体内の様子をリアルタイムで確認しながら検査や処置を行います。さまざまな診療科と連携し、安全に検査を進めています。

村田医師よりご挨拶



南大阪病院放射線科
村田 佳津子

2026年4月より南大阪病院放射線科に赴任しました。南大阪病院での勤務は初めてで、住之江区には今まであまり御縁がありませんでしたので、勤務が早く終わった日には周辺を散策しながら帰っています。下町情緒豊かな親しみやすい街並みで、グルメもたくさんあり、アートも充実しているとのこと、一度休日にゆっくりと街歩きしたいと思っています。当院も地域に根付いた親しみやすい病院と感じています。これからもよろしくお願いいたします。



体の内部を断面画像として撮影する検査です。台に寝たまま、短時間で広い範囲を撮影できます。必要に応じて、造影剤というお薬を使用し、より詳しく調べます。

MRI室



放射線科で唯一、放射線を使用しない検査で、被ばくがありません。X線ではわかりにくい軟らかい組織も詳しく調べることができます。強力な磁石を使用するため、安全確認を行う専用の前室を設けています。



放射線科の取り組み

- 🌸 検査機器の保守・点検
- 🌸 医療被ばくの最適化・線量管理
- 🌸 「放射線科だより」の発行



骨密度測定室



精度の高いDEXA(デキサ)法を用いた骨密度検査を行っています。検査時間は約10分です。

マンモグラフィー室



乳房の状態を詳しく調べるX線検査です。40歳以上の女性を対象に、2年に1回の乳がん検診が推奨されています。当院でも乳がん検診を実施しており、検査はすべて女性技師が担当しています。



検査についてご不明な点がございましたら、放射線科スタッフまでお気軽にお声かけください。

就任のご挨拶



社会医療法人
景岳会
理事長

大坂 芳明

平素より当法人の運営につきましては、関係各位皆様からのご理解、ご支援を頂き誠にありがとうございます。ご挨拶。

私儀、2026年7月1日、前柿本祥太郎理事長の後任として、社会医療法人景岳会理事長を拝命いたしました。中核となる南大阪病院は創立75周年を迎える伝統ある病院です。この重責を任されることとなり、身の引き締まる思いですが、就任にあたりご挨拶を申し上げます。

私が医師となってからほぼ40年が経過しています。その間に医療情勢はもちろんのこと、日本、世界情勢も激変していることは疑う余地がありません。医療は人間が社会生活を営んでいくうえで、重要なパーツを任されています。社会が変化（急速に進む少子高齢化、新興感染症の出現、IT革命等）していくと同時にリンクして医療の変化も必要です。激変期が今まさに訪れているこの時期に当法人の役割は簡単ではないと思われます。

創設以来の理念である【地域に喜ばれ信頼される病院】を維持していくため、歴史ある当法人の安定性を強化することと同時に、医療機器を中心とした、ハード（ダビンチなどのロボット機器）の更新、医師などの医療スタッフを中心としたソフトの教育や拡充を通じて地域社会にサービスを提供したいと思っています。

今後も当法人が地域医療、介護、福祉の中心として活躍していけるように、皆様のご支援ご鞭撻のほどよろしく申し上げ、理事長就任のご挨拶とさせていただきます。



これまでも、これからも。地域の皆様に寄り添う医療を



南大阪病院
院長

竹村 雅至

このたび、社会医療法人景岳会南大阪病院の第9代目病院長に就任いたしました竹村雅至です。

当院は昭和26（1951）年の創立以来、75年以上の長きにわたり、大阪市南部（住之江区・西成区）の医療を支える病院として皆様とともに歩んでまいりました。このような歴史と伝統のある病院の舵取りを任され、身の引き締まる思いと同時に、地域医療への貢献という大きな責任を感じております。

私たちが目指すのは、地域の皆様に「ここに来れば安心だ」「南大阪病院があってよかった」と心から信頼していただける病院です。そのためには、日々進歩する高度な医療技術（内視鏡やロボット支援手術など）を積極的に取り入れ、安全で質の高い医療を提供することはもちろん、患者さんお一人おひとりの声に耳を傾ける「温かいケア」が欠かせません。超高齢社会が加速する中で住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、医療と介護・福祉のシームレスなつながりが不可欠です。これまで以上に地域の開業医の先生方や他の医療機関との「顔の見える連携」を強化し、誰もがスムーズに必要な医療を受けられる体制を整え、地域全体で患者さんを支える医療体制の構築に尽力していきたいと考えています。また、救急応需数の向上を図りつつ、医療安全の徹底と感染対策の強化を継続し、患者さんに安心で安全な質の高い医療環境を追求していきます。

一方、良い医療を提供するためには、医療従事者自身が心身ともに健康であり、やりがいを持って働ける環境が欠かせません。互いを尊重し、専門性を最大限に発揮できる「チーム医療」を推進し、活気あふれる組織づくりを目指します。

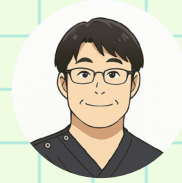
時代の変化に柔軟に対応しながらも、より親しみやすく、気軽に健康の相談をしていただけるような、開かれた病院づくりにも力を尽くす所存です。

新体制となった南大阪病院を、どうぞこれからもよろしくお願い申し上げます。

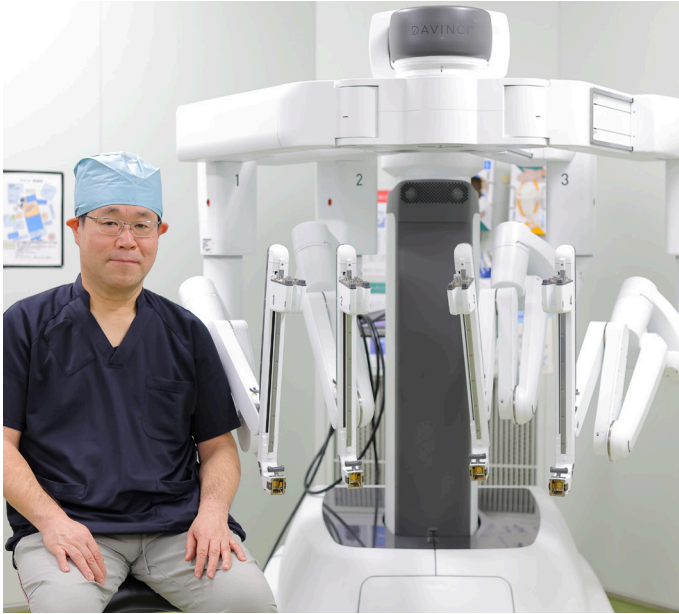


Dr.TAKEMURA

2026年7月に ロボット支援下ヘルニア修復術を開始

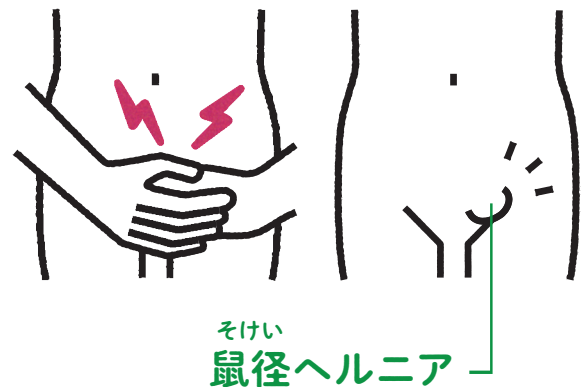


南大阪病院
外科統括部長
院長
竹村 雅至



2026年6月に鼠径ヘルニアに対してロボット支援手術が保険収載されたことを受けて、当院でも鼠径ヘルニア手術のさらなる治療成績の向上を目指し、2026年7月にロボット支援下ヘルニア修復術を開始しました。手術支援ロボットは高精細な3D視野で手術野を視認できるとともに、人の手の動きを凌駕する多関節機能を有する鉗子を使用でき、さらに手ぶれ補正機能により安定した精密な手術操作が可能となっており、従来の腹腔鏡手術を上回る繊細で合併症の少ない、より低侵襲な手術が期待できます。

鼠径ヘルニアは高齢者に頻度の高い疾患で、治療は唯一外科的治療のみです。現在では腹腔鏡を用いて、再発が少なく痛みが軽いということからメッシュと呼ばれる補強剤を用いて行う手術が普及しています。当院では年間100件以上の手術を施行し、その多くを腹腔鏡下にて行っています。しかし、腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術は鉗子の可動性に制限があり、ヘルニアの大きさや患者さんの体型によっては難しいこともあります。



ロボット支援下鼠径ヘルニア修復術は、さまざまなメリット有する手術支援ロボットを用いて行う鼠径ヘルニアを行う手術であり、従来の腹腔鏡下に行う鼠径ヘルニア修復術を上回る成績が期待されます。当院では本術式の導入にあたり、鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下手術に習熟するとともに、消化器がんに対するロボット支援手術を行っている医師が担当することで安全に行うことに配慮しております。鼠径ヘルニアと診断された方で、当院のロボット支援鼠径ヘルニア手術の話を聞きたい方は当院外来を受診いただければ、さらに詳しく説明させていただきます。

当院外科で可能なロボット支援下手術の対象疾患

- 結腸癌（2024年2月開始）
- 胃癌（2024年7月開始）
- 直腸癌（2024年2月開始）
- 鼠径ヘルニア（2026年7月開始）



認定看護師の1日



認知症看護認定看護師



やさしさを、チカラに。

患者さんに寄り添い、安心できる入院生活をサポートします。



認知症のある方が入院治療中に感じる困りごとの原因を考え、その方らしく安心して過ごせるよう、多職種でサポートします。



9時

ベッドサイドでの対話・アセスメント



患者さんとお話ししながら、気持ちや困っていることをうかがいます。



11時

不安や症状への対応・サポート

不安や混乱などがみられるときは、その原因を考え、安心して過ごせるように対応します。



14時

病棟ラウンド・カンファレンス

多職種で情報を共有し、その方らしく安心して過ごせるケアを一緒に考えます。



16時

環境調整



多職種で検討したケアが実践につながるよう、病棟看護師と連携し、安心して過ごせる環境を整えます。



認知症ケアチームの病棟ラウンド



病棟間でのケアの話し合い



安心して過ごせる環境づくりの話し合い



私たちは、こんなことを大切にしています

患者さん一人ひとりの思いや生活の背景、その方らしさに寄り添い、不安や混乱をやわらげながら、安心して治療を受け、入院生活を送れるよう支えていきます。



細胞検査士

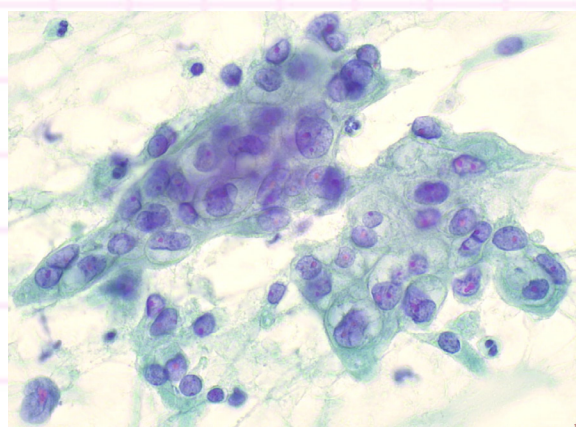
ってどんな仕事？

皆さんは「細胞検査士」という職業をご存じでしょうか。細胞検査士は、患者さんから採取された細胞を顕微鏡で観察し、がんなどの病気を見つける専門資格を持つ臨床検査技師です。全国でも8,000人程度であり、病院によっては細胞検査士が在籍していない施設も少なくありません。当院では現在4名の細胞検査士がその専門性を生かし、病気の発見を支える重要な役割を担っています。



図① 規則正しく並んでいる正常な細胞

人間の体は、およそ37兆個もの細胞からできています。細胞検査士は、肺や子宮、乳腺、甲状腺、膀胱だけでなく、皮膚、脳、唾液腺、リンパ節など、全身のさまざまな臓器や組織から採取された細胞を観察します。そのため、がんを見つけるためには、まず正常な細胞の姿を正確に理解しておく必要があります。正常な細胞は規則正しく並んでいます(図①)が、がんになると形や大きさが不ぞろいになります(図②)。このような細胞を「悪い顔をした細胞」と表現することもあります。



図② 形や大きさが不ぞろいな細胞

細胞診検査では、尿や胸水などの液体中に浮遊する細胞、痰に混じる細胞、細い針で刺して採った細胞などを染色液で色を付け標本作製します。その後、顕微鏡で一つひとつの細胞を観察し、がん細胞などの異常な細胞が存在しないかを確認します。がんを疑う細胞を見つけた場合は、最終的に専門医(病理医)と共に確認し診断を行っています。



私たちは患者さんと直接お会いする機会は多くありません。

しかし、顕微鏡の先には患者さんの人生があります。

そのことを常に忘れず、医療の提供に貢献できるよう努めています。

AIが拓く未来の医療（続編）

～実運用から見てきた確かな手応え～

2026年新年号において、当院では医療従事者の負担軽減を目的に、生成AI技術を用いた診療情報提供書などの文書作成自動化に向けた導入検討を進めていることをお伝えしました。その後セキュリティ体制を整え、現在は実際の医療現場において本格的なAIの運用を開始しております。

AIが下書きを瞬時に作成
～膨大なデータから要約文を自動生成～

カルテの膨大なデータ

要約文の下書き

時間がかかる…

一瞬で下書き完成!

AI

文書作成時間を大幅に短縮し、業務効率化を実現

AIと人間の協調で、より正確で質の高い文書へ
～AIが形を作り、人間が責任を持って仕上げる～

AIの役割
迅速に形を作る

人間の役割
確認・修正し責任を持って仕上げる

要約文の下書き

最終文書

協調

人間による最終確認のポイント

- ✓ 事実と異なる情報（ハルシネーション）の確認
- ✓ 医師の意図とのニュアンスの調整
- ✓ 医療の安全を守るための最終確認

AIと人間の強みを活かし、質の高い文書を実現

より多くの時間を、患者さんのために
～医療DXで、より良い医療の未来へ～

患者さんと向き合う時間をより多く

業務効率化
文書作成時間の大幅短縮

患者さんと向き合う時間の確保
より丁寧な診療・対話

医療の質向上
安全で質の高い医療の提供

医療DXへの挑戦を、これからも。
スタッフが笑顔で働き、患者さんに寄り添える医療の未来を目指して

見えてきた課題

実際に運用を始めてみると、いくつかの課題も見えてきました。最も注意すべきは、AIが時として事実とは異なる情報をそれらしく出力してしまう現象（ハルシネーション）です。また、AIへの指示（プロンプト）の書き方次第で出力の精度が大きく変わるため、誰もが同じように使いこなすにはまだコツが必要です。医師の意図との細かなニュアンスのズレを人間が修正する手間は依然として発生しており、医療の安全を守るための最終確認には今なお相応の集中力が必要です。



確かな成果

しかし、そうした課題はあるものの、当院ではそれ以上の「確かな成果」があると確信しています。これまで多くの時間を割いていた「カルテの膨大なデータから要約文を作る」という初期段階の作業において、AIが瞬時に土台となる下書きを形にしてくれる価値は非常に高いものです。これにより全体の文書作成時間は大幅に短縮され、業務効率化への確実な一歩を踏み出すことができます。

これからの医療DX

「AIが迅速に形を作り、人間が責任を持って仕上げる」という協調体制を現場で磨き上げ、スタッフが患者さんと向き合う時間をより多く確保できるよう、今後も医療DXへの挑戦を弛まず進めてまいります。

温故知新 (2)

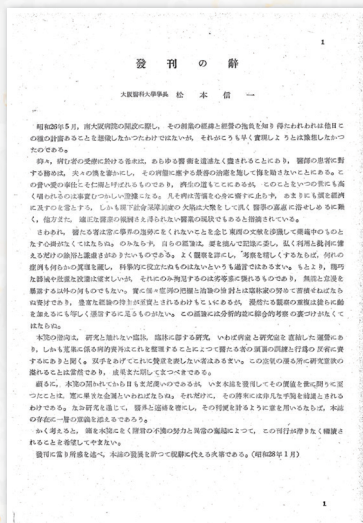
～過去の事実を研究し、そこから新しい知識や見解を開く～



写真:昭和29年初春(南大阪病院前景)

今

回は『南大阪病院医学雑誌』第一巻に掲載されている、元大阪医科大学学長の松本信一先生(皮膚科)による発刊の辞を紐解きたいと思います。温故知新(1)で書いたように、この文章も旧字で記載されており、新字を日常的に使う我々にとっては非常に読みにくい文章です。



発行の辞
原文

そのひとつのフレーズに、「およそ病は苦悩を心身にもたらすに止まらず、あまりにも煩を経済に及ぼすのを常とする。しかも現下社会保障制度の欠陥は大衆をして広く医学の嘉恵に浴せしめるに難く、他方また、適正な医療の報酬さえ得られない医業の現状でもあると指摘されている。」とあります。日本の国民皆保険体制は、1961年(昭和36年)に全国で達成されており、この文章が書かれた昭和28年はまだ国民の多くが公的医療保険に未加入の状態でした。このため治療を受けるにも非常にお金がかかり、保険制度の未整備の状態を社会保障制度の欠陥と指摘されておられます。このため経済的な問題から医学の嘉恵(めぐみ)を浴せしめる(よいものとして身に受ける)に難く(ことは難しい)と記載されており、現在の我々の感覚からはなかなか想像できません。

今後も国民皆保険制度については議論を深め、
次の時代にあった形を模索する必要がある。

現在の日本では国民皆保険制度により、少ない自己負担額で、かつ全国どこでも自由に医療機関を受診できる仕組みが構築されています。高水準の医療を比較的低い負担で受けられることが特徴ですが、急速な高齢化に伴い制度の持続可能性が課題となっています。この時代に戻ることはもうありませんが、今後も国民皆保険制度については議論を深め、次の時代にあった形を模索する必要があります。



TOPICS

病院機能評価更新審査を終えて

当院は2005年に病院機能評価の認定を取得しました。病院機能評価とは、公益財団法人日本医療機能評価機構が、中立的・科学的・専門的な見地から、病院が安全で信頼できる医療を提供できているかを評価する仕組みです。患者さんにとっては病院を選ぶひとつの目安となり、病院にとっては自院の医療の質の高さや安全性を外部からチェックされることで改善を行う機会となるものです。この病院機能評価は、5年ごとの更新が義務づけられており、4回目となる更新審査を2025年11月13・14日の2日間で受けました。

受審にあたって、TQM推進室と医療の質改善委員会を中心に1年以上前から準備して来ました。院内全部署の協力の元、内部監査や関係職種が集まってのシミュレーションといった多方面からの準備活動を経て、本審査に臨みました。

今回の審査では、『院長をはじめとする病院執行部が、多くの職員を巻き込んで取り組んできた結果を確認できた。』との評価をいただきました。さらに、長年課題としていた点の指摘があり、体制やしくみの見直しといった改善につなげることができました。このように、準備段階だけでなく、審査後にも継続して改善していくことが病院機能評価受審のメリットであり、有効に活用することが重要と考えています。また、機能評価受審という目標に向かって院内全体がまとめた意義は大きく、今後もより安全で質の高い医療を患者さんに提供出来るよう、全職員一丸となって邁進して行く所存です。





職員の“あんなコトこんなコト”をリレーで綴る

職員リレーコラム

事務部の上田浩之と申します。



別府大分毎日マラソン2026

今回は私の趣味「ランニング」を紹介したいと思います。

もともと運動が好きだったので以前からちょこちょこ走ってはいたのですが、今では気が付けば週に約5日、月間で250〜300kmを走るようになり、走らないと気持ちが悪く落ち着かないようになりました。

普段走る場所は主に自宅付近の河川敷や公園、信号の少ない道等を選んで走っています。



四万十川ウルトラマラソン 100km



別府大分毎日マラソン2026
PB更新(3時間27分12秒)



別府大分毎日マラソン2026



舞鶴赤れんがハーフマラソン2025
PB更新(1時間36分57秒)

ランニングをしていると自宅近所でも「あれっ?ここにこんな道があったんや!」「ここにこんな花が咲いてるんや!」等の新たな発見が未だにあります。

また、ランニング道中の草花、鳥・虫の声、空の色、朝日や夕日、日差しや気温、風、花の香り等、季節を五感で感じる事ができます。

このような「新たな発見」「季節の移り変わり」という楽しみが今までランニングを継続できた理由のひとつになっていると思っています。



鯖街道ウルトラマラソン 77km

現在はPB更新(自己ベスト更新)を目標に毎年フルマラソン、ウルトラマラソンに出場しています。

日頃の練習がレースタイムに反映されるので、しっかりと練習出来るよう普段から「食事」「睡眠」「時間の確保」等、日々の生活には注意しています。

しかし、時には怪我をしたりなかなか思うようにならない事もありますが、末永く出場出来るよう頑張っていきたいと思っています。

「ランニング」というとハードルが少し高く感じる方もおられますが、ウォーキングの延長がランニングです。「シューズ」「ウェア」があれば誰でもすぐにでも出来る、お金もあまりかからないお勧めスポーツです。

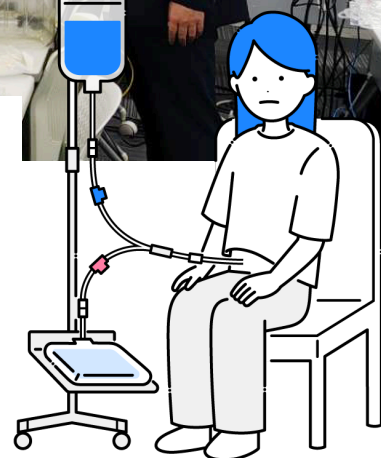
夏が終わって少し涼しくなった今、ご近所散策ウォーキングから始めてみてはいかがでしょうか?



ご自宅でできる透析治療

— 腹膜透析を始めました —

南大阪病院 腎臓内科 VAセンター 増本 晃治



「透析」と聞くと、週に数回病院へ通い、数時間かけて治療を受ける「血液透析」を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。

実は、透析治療には、もう一つ「**腹膜透析**」という方法があります。腹膜透析は、お腹の中に透析液を入れ、ご自身の「腹膜」を利用して血液中の老廃物や余分な水分を取り除く方法です。ご自宅で治療を行うことができるため、通院回数を少なくでき、仕事や家事など、ご自身の生活スタイルを大切にしながら治療が続けられることが大きな特徴です。眠っている間に機械を使って行う方法もあります。

一方で、毎日の治療や衛生管理が必要であり、患者さんの病状や生活環境によって向き・不向きがあります。そのため、血液透析も含めて、ご自身に合った治療方法を一緒に考えることが大切です。

当院では、このたび**腹膜透析の導入から外来での治療・管理まで一貫して行える体制**を整えました。治療中のトラブルにも対応し、必要な場合には入院や他の診療科との連携、一時的な血液透析などにも対応できる体制を整えています。

「自宅でできる透析について知りたい」「自分にもできるの?」など、少しでも興味をお持ちの方は、ぜひ腎臓内科へお気軽にご相談ください。





登録医紹介

カガヤシンリョウショ

加賀屋診療所



所長
中 亮子

- 内科
- 整形外科
- 放射線科

地域の皆様にとって「まず相談できる診療所」でありたいと考え、日々診療を行っております。外来診療だけでなく、訪問診療・往診にも積極的に取り組み、通院が難しい患者さんにも安心してご自宅で過ごしていただけるよう支援しております。

病院・介護事業所とも連携しながら、地域に寄り添う医療をこれからも続けて参ります。

	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~12:00	● 内科	● 内科	● 内科	● 内科 漢方	● 内科	● 内科 漢方 (第2週)	/
13:30~16:00	/	● 整形外科 (第2・4週)	/	● 整形外科	/	/	/
往診	●	●	●	●	●	/	/
18:00~19:30	/	/	/	● 心エコー 循環器 内科	● 内科	/	/

●・・・診察・検査



ホームページはこちらから



加賀屋診療所

☎06-6681-1498

〒559-0016

大阪市住之江区西加賀屋2-5-25

●大阪メトロ四つ橋線「北加賀屋」駅より徒歩7分

くぼりクリニック

くぼりクリニック



院長
久堀 保

- 物忘れ外来(認知症)
- しびれ専門外来
- 頭痛専門外来
- その他診療科目

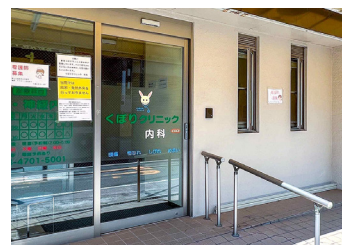
くぼりクリニックは、内科・脳神経内科のクリニックです。

一般内科(高血圧・糖尿病などの慢性疾患)はもちろん、アルツハイマー型認知症、パーキンソン病や多発性硬化症といった神経難病や、脳梗塞や脳出血といった脳血管障害などを、専門的な見地から診察しております。

とくに認知症に関しては、医院での治療だけでなく在宅訪問診療や、往診などと組み合わせて、トータル的な医療を提供しております。

	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~12:00	●	●	●	/	●	●	/
16:30~19:30	●	●	●	/	●	/	/

●・・・診察・検査



ホームページはこちらから



くぼりクリニック

☎06-4701-5001

〒559-0004

大阪市住之江区住之江1-4-27 ハイツ富士1F

●南海本線「住之江駅」西出口より徒歩2分

病院広報誌「もっとみなみおおさか」 ご意見・ご感想募集

社会医療法人 景岳会 南大阪病院 広報誌「もっとみなみおおさか」のご意見・ご感想や次号以降の掲載内容について募集しております。皆様のご意見をふまえてより良いものになればと思っております。ぜひQRコードから簡単なアンケートにご協力をお願いいたします。

アンケートは
こちらから



バックナンバーは
こちらから
ご覧いただけます。



南大阪病院の公式LINEが できました！



上のQRコードから

ぜひ、お友達登録をお願いします。

南大阪病院の理念

地域からよろこばれ、信頼される病院を目指します。

基本方針

1. 患者様の意思と権利を尊重し、十分な説明と納得と根拠に基づく医療を提供します。
2. 常に研鑽に努め、安全・安心で質の高い医療を提供します。
3. 地域包括ケアシステムの中核的な役割をはたします。
4. 医療を通じて社会に貢献するため健全な財務体質を構築します。

看護部の理念

地域医療の中心的病院としての使命と役割を自覚し、
地域の皆様と社会のニーズに対応できる看護を実践します。

基本方針

1. 患者様の命の尊厳と人権を尊重します。
2. 安全で質の高い看護を実践します。

目標

1. 説明と納得に基づく患者様中心の看護を実践します。
2. 知識と技術を磨き、豊かな人間性を有する看護職を育成します。
3. 経営への参画意識を高め、効率的な看護業務を遂行します。
4. 職員満足度が高まるよう、職場環境の充実に図ります。

患者さんの権利と義務

患者さんの権利を尊重し、インフォームドコンセント(十分な説明と納得)と自己決定権を大切に患者さん本位の医療を提供していくために、当院とひとりひとりの患者さんは、以下のことを確認し合います。

- 患者さんは、人間としての尊厳を尊重されながら医療を受けることができます。
- 患者さんの医療上の個人的な秘密は守られます。
- 患者さんは治療、看護の内容及び病状経過などについて、十分な説明と必要な情報の提供を受け納得のうえ自分の意思で医療を選ぶことができます。
- 患者さんは研究途上にある医療を受ける場合、前もって十分な説明がおこなわれます。
- 患者さんはお互いの療養環境を守るために、定められた諸規則を守る義務があります。



ホームページは
こちらから



社会医療法人 景岳会
南大阪病院



受付時間 平日 午前 8:30～11:30
午後 12:00～15:30
土曜日 午前 8:30～11:30

※日曜日・祝日は休診

※曜日によって診療案内・時間が変わりますので、
詳しくは窓口および外来担当表でご確認ください。

住所 〒559-0012
大阪市住之江区東加賀屋 1-18-18

TEL 06-6685-0221 **FAX** 06-6685-5208

季刊誌：「もっとみなみおおさか」第89号
2026年10月1日発行

発行所：社会医療法人 景岳会 南大阪病院

発行責任者：南大阪病院 広報委員会委員長 竹村雅至



編集
後記

これまでの病院は来院される患者さんのみを対象としていれば十分であり、患者さんを広く集めるという行為はあまり重要視されませんでした。しかし、コロナ禍後に受診控えというこれまでに無い現象が起り、患者さんが来院されなくなりました。このため、病院は患者さんに病院を選んで来ていただく必要に迫られています。この手段の一つが広報で、病院広報の役割はますます重要になってきています。

広報委員会委員長 竹村雅至